

## 小諸市脱炭素先行地域キックオフシンポジウム「みんなで取組む脱炭素まちづくり」 質問及び回答

令和6年6月8日（土曜）に開催しました脱炭素先行地域キックオフシンポジウムにて、質問票をご提出いただきました。下記のとおり質問とその回答について公開いたします。

なお、質問内容は記入いただいた原文のまま記載しております。

No.	質問内容	回答
1	小諸市のCO2排出量と吸収量は現在どの程度か？	<p>小諸市におけるCO2の排出量は、令和2年度（2020年度）現在において、286千トン-CO2の排出量に対し、森林のCO2吸収量は7千トン-CO2と推計しております。</p> <p>なお、この内容については、令和5年度に改定した「第3次小諸市環境基本計画」にも紹介しておりますので合わせてご確認くださいと存じます。</p> <p><b>「第3次小諸市環境基本計画」参考URL：</b> <b><a href="https://www.city.komoro.lg.jp/material/files/group/10/kankyokeikakuR6.pdf">https://www.city.komoro.lg.jp/material/files/group/10/kankyokeikakuR6.pdf</a></b></p>
2	（提案）上記数値を「あと〇tで達成」の様にカウントダウン方式で市民に示してみてもどうか	<p>ご提案いただきありがとうございます。</p> <p>広く市民、事業者の方々に本事業の取組による成果が「見える化」して示せるよう、今回ご提案いただいた内容と合わせて、より効果的な周知方法等を検討させていただきます。</p>
3	市のどこに行くと、相談にのってもらえるのでしょうか？	<p>市役所2階ゼロカーボン推進室（生活環境課窓口）にて相談を承っておりますので、お気軽にご相談ください。お電話でも号相談を受付けております。（TEL：0267-22-1700 内線2275）</p>

No.	質問内容	回答
4	<p>脱炭素先行地域のエリア内で実施して得られた効果をエリア外へ広げる方法や仕組みの例をご教示いただきたい。</p>	<p>本市の脱炭素先行地域づくり事業の計画においては、公共施設等の屋根を活用した太陽光発電設備の設置や地域資源を活用した再エネ電源の整備、そして先行地域内でのエネルギー需給の最適化を計画しております。</p> <p>また、既存の戸建住宅における再エネ電源の整備、蓄電池等のインフラ整備、断熱改修を行っていくこととしておりますが、既存の戸建住宅における脱炭素化、ZEH化にあたっては、地元の建築事業者等の協力や施工が必要不可欠です。地元事業者の方々が施工していくことで地域経済へ寄与するとともに、既存の戸建住宅が脱炭素化・ZEH化していくことで住宅ストックの価値向上と、脱炭素先行地域のエリア価値の向上を目指します。</p> <p>エリア外への普及については、本事業による取組と成果、費用対効果等をわかりやすく可視化して周知・広報していくこと、さらには、エリア内での施工を行った地元事業者の方々が、実績によって集積した知識・ノウハウを自らの事業活動における提案へと繋げ、市域全体へと普及していくことを期待しております。</p>

No.	質問内容	回答
5	<p>小諸市では「5キロワットソーラーを1万軒（現在2000軒）」を目標に、という話がありましたが、5キロワットで自分の家の電力は、まかなえるものでしょうか？ ちなみに3人家族、築5年の家です。（エネルギーを表す単位や数字が、実感としてつかみにくいので）</p>	<p>1世帯が1年間に消費したエネルギーのうち、電気によるものは全国平均で4,175kWh（※1）となっています。</p> <p>また、太陽光パネルの1kWあたりの年間発電量は、地域や方位、傾斜角にもよりますが、1,000kWh（※2）が目安とされています。</p> <p>国や県、市町村、または各事業者にて公開されている統計データから計算することで、太陽光発電を導入するに必要な容量の目安として算出することができます。しかし、発電量は、実際の天候や地域、パネルの向きによって変動しますので、あくまでも参考として注意することが必要です。実際に導入される際は、事業者と確認してから導入されることをおすすめします。</p> <p>なお、長野県では、「信州屋根ソーラーポテンシャルマップ」（URL：<a href="https://www.sonicweb-asp.jp/nagano_solar_map/">https://www.sonicweb-asp.jp/nagano_solar_map/</a>）を公開し、日照時間、屋根面積、傾斜などをシミュレーションしたポテンシャルを建物ごとに表示しておりますので、参考にご覧ください。</p> <p><b>※1 環境省HP「家庭のエネルギー事情を知る」URL： <a href="https://www.env.go.jp/earth/ondanka/kateico2tokei/energy/detail/01/">https://www.env.go.jp/earth/ondanka/kateico2tokei/energy/detail/01/</a></b></p> <p><b>※2 太陽光発電協会HP「よくあるご質問」URL： <a href="https://www.jpea.gr.jp/faq/563/">https://www.jpea.gr.jp/faq/563/</a></b></p>
6	<p>CO2排出量の長野市と小諸市との違いをぜひ分析してほしい。</p>	<p>詳細にデータを検証し、長野市のみならず類似団体などとの比較を行い、別の機会に公表等を行いたいと考えております。</p>

No.	質問内容	回答
7	公共交通の整備拡大の難しい部分は多々あると思うのですが、高齢者の移動手段を含めて今後どうしていきたいのか？	<p>今回の脱炭素先行地域づくり事業の計画においては、当市のデマンドタクシー等を全台数EV化し、先行地域において創られた100%再生可能エネルギーによって稼働させるEVモビリティシステムを構築する計画です。</p> <p>現在、デマンドタクシー「こもろ愛のりくん」は、市内事業者に運行を委託しており、利用者登録・管理、予約システムの運営、配車を行っております。現在までの利用実績を参考に、導入予定のEV車両の性能、航続距離等を確認し、高齢者の方々を含めた外出機会の創出、移動手段の確保のために運行体系が検討されるものと認識しております。</p>
8	こういう場に参加できれば色々理解できるのでこの考えの普及をどうしていくのか教えてください。	<p>今回は、脱炭素先行地域づくり事業のキックオフとして開催いたしましたが、事業の進捗と合わせて報告をしていくとともに、講演中でもありましたが、市民の方々にも取組や事業についてご理解いただくよう今後も市民、事業者の方々を対象としたシンポジウム等の開催を予定しております。</p>
9	ぜひ0カーボンを達成してください。	<p>脱炭素先行地域づくり事業を進捗させ、その成果と取組を市域全体へと広げていくことで小諸市の2050年ゼロカーボンの達成を目指して行きます。</p>

No.	質問内容	回答
10	脱炭素社会の実現に向けて国が実施している取組を教えてください。	<p>2050年までのカーボンニュートラルの実現に向けたロードマップとして「地域脱炭素ロードマップ」が策定され、脱炭素社会へ移行していくための対策・施策を取りまとめています。</p> <p>上記ロードマップに基づき、脱炭素先行地域での地域の特性に応じた先行的な取組の積極的な支援、また、重点対策として①屋根置き太陽光発電の促進、②地域共生・裨益型の再エネ電源の立地、③公共施設や業務ビル等の省エネとZEB化誘導、④住宅等の省エネ性能等の向上、⑤ゼロカーボン・ドライブの実践、⑥資源循環の高度化を通じた循環経済への移行、⑦コンパクト・プラス・ネットワーク等による脱炭素型まちづくり、⑧食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立に取り組んでいます。</p> <p>なお、詳細については、下記URLよりご確認ください。</p> <p><b>【地域脱炭素ロードマップ】参考URL：</b>  <a href="https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/datsutanso/pdf/20210609_chiiki_roadmap.pdf">https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/datsutanso/pdf/20210609_chiiki_roadmap.pdf</a></p>
11	脱炭素で注目の電気自動車や再生可能エネルギー、水素エネルギーについて課題を見つめ直すことにならないか。問題点はないか。	<p>脱炭素社会の実現にあたっては、再生可能エネルギーの導入・創エネが必要不可欠です。</p> <p>特に、太陽光発電については、小諸市では「小諸市太陽光発電設備の設置及び維持管理に関する条例」を制定し、地域や景観との調和を重視し、住民との合意形成が得られることを前提とした発電事業を促進しております。</p>

No.	質問内容	回答
12	<p>バイオマス発電とは 2050年の発電量15%を目指すバイオマス発電のデメリット・メリットは？ 安全性は？</p>	<p>バイオマス発電とは、生物由来のエネルギー源であるバイオマス燃料を利用した発電方法です。バイオマス燃料の例としては、間伐材や建築廃材などを活用した木質燃料、生ごみや食品残渣、汚泥汚水を活用したバイオガスなどが挙げられます。</p> <p>バイオマス発電は、木質燃料であれば既に大気中にあったCO2を吸収・固定化し、燃焼によってCO2が発生しますが、新たにCO2が生成されるわけではありませので（実質排出量ゼロ）、大気中のCO2濃度への影響はありません。</p> <p>また、他の再生可能エネルギー電源とは異なり、天候に影響を受けませんので、比較的安定した再生可能エネルギーを供給することができます。</p> <p>加えて、未利用の原料や廃棄物が原料となりますので、資源循環ということも同時に達成し、環境負荷の低減に寄与しております。</p> <p>一方で、発電効率性が低いことや発電事業に伴う公害等へも注意が必要です。</p> <p>小諸市では、既存の施設や地域資源を活用することで、安全性に配慮しデメリットの低減に努め、本事業による再生可能エネルギーの導入を図っていきます。</p>

No.	質問内容	回答
13	森林を伐採してまで、ソーラーパネルを設置する必要があるのか？ 森林は守るべき！！	<p>2050年までのCO2実質排出量ゼロの達成のために、前提として、森林の適切な整備や保全によって、CO2吸収機能を維持し向上させていくことが必要不可欠です。</p> <p>小諸市では、「小諸市太陽光発電設備の適切な維持管理に関する条例」を制定し、太陽光発電設備の導入や維持管理、廃棄に至るまで、その設備が設置される地域や景観との調和を重視しつつ、住民との合意形成を前提に太陽光発電が促進されることを誘導しております。</p> <p>本事業に関わらず、再生可能エネルギーの導入については、上記を重視し、普及を図っていくととしております。</p>